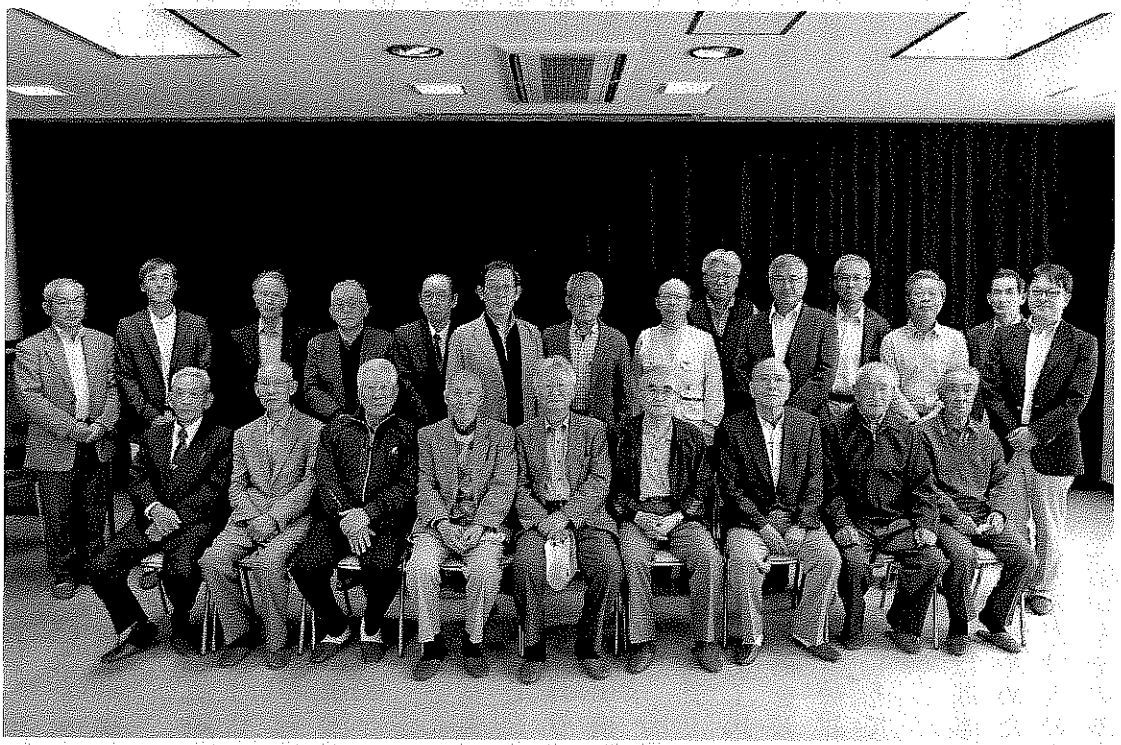
# 新高退通信 No.143

HP：shin-koutai.jimdo.com　mail：shin.koutai@gmail.com



2019年度総会で記念撮影

新潟高教組

発行所／新潟県高等学校教職員組合／新潟市中央区川岸町２－11／ＴＥＬ(265)4151／ＦＡＸ(231)1036／１部10円（購読料は組合費に包含）

発行人　遠藤　丞

2022年９月１日
号　外

新潟県高等学校
退職者の会

事務局
〒951-8133
新潟市中央区川岸町2-11-4
（高校会館内）

退職者の会専用電話
025-265-1110

## 支部活動報告「ウィルス禍を生き延びよう」

柏崎支部事務局長　中村政道

### 1　はじめに

のっけから私事で恐縮だが、２０２０年４月17日、毛猛山の一泊二日の山行を終えて帰る車の中で、全国一斉緊急事態宣言が出されたことを知った。前年の暮、中国武漢で発生した新型ウィルスによる感染症は瞬く間に世界中に広がり、日本でもクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号での感染拡大に象徴されるように瞬く間に広がり、２月28日には文科省から全国一斉の休校要請が発出された。それから２年余り、私たちの生活は変異を続けるウィルスに翻弄されている。退職者の会の最大の存在意義は親睦と交流つまり「集まる」ことだが、感染症によってそれが否定されたのだ。

柏崎支部のこれまでの活動は、総会（６月）、旅行（２年に１度）、新年会（１月）を大きな柱として行ってきたが、２０２０年１月の新年会を最後に実施されていない。役員会と支部だより（年３回発行）を何とか続けているのみである。というわけで支部の活動報告といっても最近のものはないのでこれまでやってきたことを紹介することで報告に代えたいと思う。

### 2　支部総会

２０１９年度の総会は７月６日、ニュー新橋で開催され21名（内懇親会14名）が出席した。会員の３分の１近くが参加したことになる。柏崎支部の総会は支部費の徴収も併せて行っているためか参加者が多いような気がする。欠席者の支部費を預かってきてくれる人もいるので、総会の場でほぼ会員の半数の支部費が集まる。総会後の懇親会は旧交を温めあい、来年の再会を約束しあう貴重な場となっている。

ちなみに欠席者の支部費は郵便振替で納入してもらうのだが、今年４月から現金で払い込む場合１１０円の手数料が別にかかるようになった。支部活動が行えないことから２０２１、２０２２年度の支部費は徴収しないことにしたため今のところ影響はないのだが、今後どうしたらいいか頭の痛い問

題である。

3　バス旅行

２０１９年10月４日、富山県へのバス旅行を実施した。台風の影響であいにくの雨模様の中、ＹＫＫセンターパーク、海王丸パーク、高岡大仏を巡った。

ＹＫＫセンターパークは、ＹＫＫの創業者である吉田忠雄氏とファスナー、アルミサッシ製造の資料館である。海王丸は「海の貴婦人」と呼ばれる美しい帆船で、商船学校の練習船として使われていたが、１９９０年から新湊市の富山新港で公開されている。海王丸も美しいがパークのある富山新港にかかる新湊大橋も美しい。この二つの建造物の背後に立山連峰が見えると最高の景色なのだが、少し残念だった。高岡大仏は美男の大仏として知られている。現在のものは３代目で１９３３年、鋳物の街高岡の技術を結集して造立されたとのこと。確かに柔和なお顔だった。

4　新年会

毎年１月に近隣の温泉で日帰りの新年会を行っている。２０２０年１月は高柳のじょんのび村が改修中、十日町の千年の湯は日程が合わず、弥彦のさくらの湯で行うことになった。10人以上なら無料の送迎があるのだが、残念ながら定員に満たなかったため温泉なしで市内の飲食店で実施した。

昨年夏にワクチン接種が開始され、今年の新年会はできるのではないかと期待したが、変異を続けるウィルスによる第６波の影響で断念せざるをえなかった。

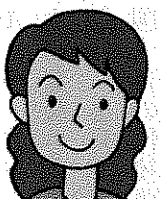
5　おわりに

交流、親睦らしいことが何もできないので、支部だより２０２０年12月号、２０２１年５月号で「誌上交流」として「コロナ禍に思う」、「コロナ下の日常」、「今取り組んでいること」というテーマで短文を募った。その中でＩ氏は週２回、夕方１時間ほど酒を楽しんで長生きしようという趣旨の「90の会」を作ったと寄稿してくれた。したたかですね。

冒頭の話に戻るが、私は基本的に土日に山へ行くことをやめた。行くのは平日、できるだけ人の少ない山を選ぶ。毛猛山もその基準で選んだものだ。案の定私以外誰もいない山にテントを張り、美しい夕焼けを楽しんだ。この日常ももう少し続くようだが、したたかに生き延びましょう、皆さん。

## The long and winding road

新潟支部　町田篤子（21）



今から遡ること38年前、大学を卒業してすぐに某新設私立高校の英語科教員として採用され、教員生活をスタートしました。翌年栃尾高校で新採用となり、新潟向陽高校で定年退職を迎えるまで、37年間県立高校の教員を務めさせて頂きました。組合歴は県立高校在職期間と重なり37年間です。組合は辞めないこと、輪番や選挙で選ばれたら可能な限り役職を引き受けるよう努力する、を心がけて続けてまいりました。組合活動から得たものはとても大きかったと感じています。

教員生活は一言で言えば、山あり谷あり。希望も時には絶望も。英語で言えば the long and winding road そのものでした。２校目で体を壊して１年近く休職した後も、病院通いがずっと続き、健康に自信が持てず何度も退職を考えました。そんな中で、至らぬ私を支え励ましてくれた医師や多くの先生方。また少しでも私の心を元気にして、痛い時でも笑えるようにと「クレヨンしんちゃん」のマンガや、千羽鶴を贈ってくれた優しい生徒達。周囲の人々に支えられて退職までの日々を過ごすことができ感謝の気持ちで一杯です。

退職後は、細々と再任用短時間職員として新しい職場でお世話になっています。ＩＣＴに疎いので（完全に諦めてはいませんが）、新しいことを覚えるのに時間がかかり大変ご迷惑をおかけしています。週３日の勤務ですが、体力がないので休みの日は疲れがどっと出てしまい、家で休みつつゆっくり過ごしています。唯一の生きがいは、今から３年前、子供が家を出たのをきっかけに、リ・スタートした音楽。学生時代から好きでしたが、自分には弾けないと思い込んでいたポピュラー＆ジャズピ

アノ。さらに超初心者のギターでビートルズ。現在は月3回ずつ、A音楽教室に通い素晴らしい講師の先生方と楽しくレッスンをしています。休日はだいたい音楽に関する勉強や練習。ユーチューブの音楽番組を見たり、読書したり、講師の先生のライブにも時々出かけています。現在はインドア生活中心で、全く外に出ない日もあるので、今後は何か運動を始めたり、映画鑑賞や旅行にも出かけたいと思います。

## 感謝の気持ちでいっぱいです

**佐渡支部　藤井千代美（21）**

1980年3月に県立加茂高校を卒業し、4月より県立佐渡女子高校で家庭科（被服科）の実習助手としてスタートし、20年間（最初の5年間は、旧姓中野で）色々と学ばせていただきました。被服科の閉科が決まってから最後の2年間は、火水の2日間を佐渡高校へと2校間勤務も経験させていただきました。その後理科へ転科し、両津高校で8年間、羽茂高校で3年間、佐渡高校で8年間、2回目の羽茂高校で3年間の計22年間を理科の実習助手として学ばせていただきました。合計で42年間という、長くもあり今から思うとあっという間だったと正直言って感じております。この間に4人の子供たちも無事成長し親元を離れました。長年お世話になった同居の義母も2月末に96歳で老衰のため天国へ旅立ち、今は家でした3歳のメス猫も帰って来ないので、夫と2人だけのありふれた毎日を過ごしながら、4月中は上越へ嫁いだ次女の出産後の手伝いに行ったり、5月中は田んぼの補植やシイタケのコマ打ちや、6月からは毎日畑へ出て慣れない農作業（元々実家が農家でしたから、多少の経験はありますが・・・）をがんばっています。元々、体を動かすことは好きなので、今後少し余裕ができたら、中3の時にやって楽しかった走高飛びをもう一度やってみたいと思っています。（ただし右ヒザを痛めているので、すぐには無理ですが・・・）

また可能なら、中～長キョリにも挑戦してみたいです。

あと冬場になって田畑へ出なくてよくなったら、手縫いでチビの小物などを作りたいと思っています。

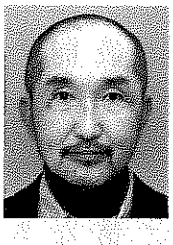
これまでの42年間、私に関わってくださった生徒たちと保護者の皆様、助けてくださったり、色々と教えてくださったまわりの先生方に、感謝の気持ちでいっぱいです。

この42年間、本当にありがとうございました。

そして、今後共よろしくお願い致します。

## 何か新しいことに

**長岡支部　長谷川善明（21）**



2022年3月で勧奨退職いたしました長谷川善明と申します。1992年採用で十日町実業、六日町、長岡大手、十日町、最後は見附分会でちょうど30年間の勤務でした。魅力的な先輩・同僚・教え子など多くの出会いに恵まれて、楽しく充実した教員生活を続けることができました。その折々の刺激やすべてのことに感謝しております。

さて、世の中では再任用や定年の延長が逐次進行中ですが（現時点では）私の世代が65歳定年が完成する最初の年度ということになっています。また思いつくこと未体験のことに色々取り組んできた私ですが、最近はそうしたアイデイアが乏しくなってきました。そんな内外の状況も勧奨に踏み切った原因の一つです。この後また新たな職業に挑戦する予定ですが、今はまだ（少し遅めの）モラトリアム期間を楽しんでいます。

4月にはキャンピングトレーラーをけん引し、これといった目的地（宿泊地）を決めないままのあいまい旅に半月ほど出てきました。日々、現在地点から移動可能な範囲で都合のいいトレーラー泊可能なパークを探し、必要なら予約をし、その最寄りの観光や飲食を楽しむ、という生活サイクルでした。可能な限り高速道路は使わず沿線の風景や空気感に触れながらという旅は、想定外のものや場所を見つけることもあり楽しみのひとつでもありました。結果的に総走行3000㎞余り、遠方の地は紀伊半島の伊勢・白浜、四国の金刀比羅・丸亀、山陰の出雲・鳥取砂丘などが挙げられます。当時はまだ自粛ムードもあってほとんどのエリアで人出は少なくマイペースでのんびり漂ってくることが

できました。

「公務員からの解放」の直後、5月の県知事選、7月の参議院選と2つの選挙には気兼ねなく応援活動できました。特に参院選では全国比例候補の応援で6／22～7／9、全国のべ17府県での街宣行脚に帯同し3200kmを運転してきました。この選挙旅行では偶然の連続。特に寄せた訳でもないのに4月の旅と行程が似通っていて2か月振りの来訪の多いこと。また、ほんの数時間だけの活動をともにした現地応援弁士に初対面とは思えない旧知感。何度も「巡り合せの妙」を感じてきました。

人生の折り返しは過ぎましたが、これからも様々な出会いと巡り合せを求め、初めてを探し続けていこうと思います。

## 教員生活を振り返って

**長岡支部　星野和弘（21）**

新潟東工業高校からスタートしました。職員は強い個性と熱気にあふれ、人間の「イロハ」を学習させられました。ほとんどの先生は組合員であり、返せない恩を頂きました。また、3年目にテニスを本格的にやる事を進められました。次は栃尾高校定時制で、やはり職員は個性豊かでエネルギッシュで、同年代の先生も多く在籍し生徒指導は大変でしたが、職員間は楽しく過ごせたと思います。栃尾では「きのこ・山菜取り」を学び「新潟きのこの会」会員となるきっかけになりました。

次は三条東高校で普通科の大規模校を初めて経験し、様々勉強いたしました。最初の数年間は時間版に研修日がありましたが、その後なくなり徐々に不自由な職場環境となって行きました。三条東までは職員のつながりが今でもあります。この頃からテニスの草大会で優勝できるようになり、念願のオーディオ制作を始める事もできました。

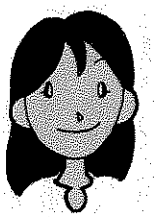
次は三条高校で、進学指導と初めて持ったテニス部に特に力を入れていました。やればやるだけ生徒は伸びていきました。この時、スピーカー制作コンテストで第一席をもらいました。これは日本中からの応募です。次は長岡大手高校で基本的スタイルは三条高校と変わりません。学年主任をしていた時期は一〇〇メートル走を一日走っているようでした。この時の生徒達に呼ばれ時々、彼らと一杯やるのは嬉しい限りです。

次は加茂高校で、この頃は教員間の意志疎通も少なくなり、生徒との会話も相当気をつかうようになってきました。一年目のテニス部は全て一開戦負けでしたが、五年目の上中越大会団体で準優勝できた事は嬉しかった。そして、生徒数の減少に伴い、過員処理で最後の3年間を吉田高校で勤務しました。この頃からＩＣＴを活用する能力が必要となってきました。

最後に、現在第3次世界大戦の中にあるかもしれない状況ですが、古民家カフェの様な建物の中で、演奏会の観客となっている錯覚に陥る真のオーディオで、組合員の方々を癒せる空間を作りたいと考えています。マイスター伝授の珈琲もあります。

## 教員生活を振り返って

**魚沼支部　滝沢由美子（21）**



新採用は六日町高校。組合員や若手は少数派。ある時お酒の席で不満を言っていたところ、「言いたいことがあるなら、職員会議で言え！」と分会の先輩に叱られたことを思い出します。この頃はまだ「教育職」しか育休がなく、「行政職」扱いで産休のみで復職した同僚や、交渉の場で育休拡大を求める県職労の女性達の姿に組合の大切さを教えられました。

2校目は長岡向陵高校。学級増でプレハブの教室が増設され、大学進学率向上の嵐が吹き荒れた時期でした。新設校でゼロから分会をつくり、職員会議や校務分掌のありかたを少しずつ変えていく、先輩方の粘り強さを目の当たりにしました。

次は長岡商業高校。社会科準備室では交代で味噌汁作り。今思えばまだまだ職場に余裕がありました。学校五日制スタートも、この時期でした。

2度目の魚沼支部は塩沢商工高校から。毎日何が起きるか分からず、芋づるが繋がりすぎる案件も多発。気が良いのか悪いのか、頭痛の種も可愛いと思ってしまった5年間でした。遅ればせながらここで初めての分会書記長。「本部の指示を『もぐす』のも、書記長の大事な仕事だ！」との分会長の教えは、その後の組合活動の支

え?となりました。

5校目は十日町総合高校。この時期人事異動のルールが変わり、3~4年で異動する人が増え、学校が落ち着かなくなったように感じました。組合脱退の申し出に分会長として対応せざるを得なかったことが苦い思い出です。

最後の勤務校は松代高校。分会員が2名に減少し、一時は最後の1人になることも覚悟。その後組合員は増えたものの、事務室の兼務など、小規模校に追い打ちをかけるようなことが続く中、分会の活動もままならず、少し悔いが残ります。

現在は、松代高校でほんの少し授業を持つのみとなり、あれこれチャレンジしながら、これからの日々を模索中です。

楽しみの一つの畑や庭では、春から虫の害に困りました。今年はなぜ、とも思いましたが、昨年までは気がつく余裕がなかっただけなのです。新しい日々は、今までよりも丁寧に、自分や周りと関わっていきたいものです。

## 現退一致

佐渡支部　岩田康晴（21）

【現状報告】

現役最後の年に相川分校に異動し、教務室で「若いつもりでいるの?」と尊敬する先輩から問われ、年齢相応な事ができていないことに愕然となった2年前。新型ウイルス禍で新しい生活が始まった年でした。学校を挙げて「かかわる『同和』教育」を実行している学校で5年働く覚悟での異動でしたが、わずか1年で現在の佐渡総合高校へ再異動となり、継続雇用で現在に至ります。新津の自宅の光熱費を賄うには、特地手当もなく厳しい経済生活を強いられています。

【現場の変化】

森内閣のミレニアムプランで学校にコンピュータ（PC）が導入され、学校事務のスリム化で総務事務システムが入り、今（22）年度から公務運営システム（出席簿や成績を一括管理するシステム）が導入されました。授業面では昨（21）年度から電子黒板が各教室に入り、教員のPCやタブレットから動画やデジタル教材が扱えるようになり、今年度は生徒が1人1台のタブレットを持ち、グーグルクラスルームを活用し、教材配信、レポート提出やアンケート集計が簡単できるようになっています。若手教職員や生徒から使い方を学びながら何とか付いていくのが精一杯。ですが、教育の本質は変化すべくもなく、一人ひとりの生徒の側に立ち、権利を保障するミッションをしっかりと果たしたいと念じています。

【受け継がれたもの】

我らが新高教の先輩たちが牽引した運動方針は、当時先進的であったものの、現在は社会の主流となっています。「かかわる『同和』教育」然り、「働き方改革」然り。「でも県教委は掛け声だけじゃん」と言う声もありますが、掛け声だけでもアリガタイ。魂を入れて現場を引っ張るのが現在の組合員の仕事なのかなと思います。

【現退一致】

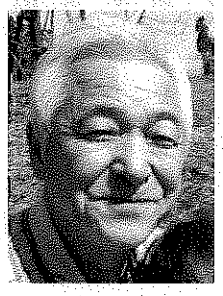
現退一致とは、現職教職員と退職教職員が心を一致させてとりくむことを指しますが、我が新高教と退職者の会の関係でいえば、政治闘争・選挙はもちろん、地域での「同和」教育の現地研修や平和学習の場面で、先輩方と協力しています。

佐渡では朝鮮人「強制労働／徴用」の課題が「佐渡島の金銀山」世界遺産登録の関係で浮かび上がる中、先輩方の手を借りながら、生徒たちと一緒に地域での戦争の歴史について学びを進めているところです。

あと2年弱で再任用期間を終えますが、いつまでも現退一致のとりくみが深まり、続けられるよう、退職者の会の力により交流が深まることを期待しています。

ぼうごなつこ氏作画

# この人は今 その２



魚沼支部　太田喜一郎（08）

## ◆育ての親三代目京舞さん～多彩な活動の展開と指導者を通じたつながり～

素人が演じる地芝居は指導者が必須です。この地域では昔から地元に芸名や屋号を持つ役者や弟子が多くいて、村芝居の指導も担っていました。三味線の弾き語りをする太夫や歌舞伎衣装や道具を貸し出す店もあり、それが生業として成立する程盛んな所でした。

しかし戦後の高度成長期には魚沼地域はもとより新潟県内にも指導者がいなくなり、地芝居指導はもっぱら初代が南魚沼市出身だった縁から群馬県沼田市の二代目・三代目の三桝京舞さん（屋号：京桝屋さん）にお願いしていました。塩沢歌舞伎の指導者となった三代目京舞さん（写真１）は女性で、指導も細やかさがあり衣装作りや鬘結いにも精通していました。次男の清次郎さんが義太夫の弾き語りと大小道具作りができ、公演に必要なほとんどが京桝屋さんには揃っていたのです。

「雪譜まつり」という公演の場と「京桝屋」という頼もしい指導者を車の両輪として塩沢歌舞伎は予想を超えた多彩な活動を重ねて行くことになります。まずしおざわ雪譜まつりでは歌舞伎公演が定着化し、三国街道塩沢宿（通称牧之通り）の人気と相まって市外・県外からもお客様が観劇に訪れるようになりました。また地元小学校の協力も得て子供歌舞伎の育成にも力を入れるようになりました。師匠が同じことから市内の五十沢歌舞伎・魚沼市の干溝歌舞伎・佐渡の片野尾歌舞伎・群馬県の白沢歌舞伎・水上歌舞伎とも交流が生まれました。三代目の指導を受けた17年間で、上演した外題は何と23演目のべ70回にも及びます。雪譜まつり以外でも、県内の地芝居団体を集めた「にいがた歌舞伎祭り」（写真２）や南魚沼市民会館20・25周年記念公演、中越沖地震復興祈念柏崎公演、全国地芝居サミットin小出への参加（写真３）など多岐にわたります。昨年の春、この三代目三桝京舞さんが急逝され、直接教えを乞う機会が永遠に失われてしまいました。

写真１　演技指導する三代目京舞さん

写真２「にいがた歌舞伎まつり」初の女形に挑戦

写真３「全国地芝居サミットin小出」初の後見役

## ◆子供歌舞伎からのつながり～ロータリークラブ・吉右衛門さん・石川県小松市・三条市公演～

子供歌舞伎結成のきっかけは、保存会設立２年目に町立今泉博物館で開催した「ようこそ地芝居の世界へ展」でした。その「体験教室」に地元小学生が総合学習の形で参加し、子ども達の要望で石打小学校に歌舞伎クラブが誕生したのです。翌年１月には石打小学校体育館で成果発表会も行いました。その後も財団法人伝統文化活性化国民協会「伝統文化こども教室」の助成金を受け、小学校

の先生方の理解と協力も得て５年間小学校体育館で発表を行いました。伝統文化の継承にとって子供の育成は大きな希望につながります。メディアに取り上げられる機会が多くなり、家族親戚はもとより友達家族や教育関係者にも理解者・愛好者が広がっていくからです。この子供歌舞伎から生まれた「つながり」を紹介します。

小学校３年生から高校まで歌舞伎を続けたMさんは立役から老け役まで何でこなす女子でした。W大進学で上京する直前の「しおざわ雪譜まつり」では「知らざあ言って聞かせやしょう」と見得を切る弁天小僧役（写真４）で送り出しました。同大での卒研も自己の歌舞伎体験を生かした地芝居がテーマでした。その彼女の父が地元ロータリークラブの会員である縁から雪国ロータリークラブ50周年記念事業として子供歌舞伎公演が実現し、メインゲストの人間国宝中村吉右衛門さんが講演された後そのまま対談相手の元ＮＨＫアナウンサーの葛西聖司さんと客席から子供歌舞伎「仮名手本忠臣蔵七段目」（写真５）を観て下さったのです。主役の「大星由良之助」は吉右衛門さんの当たり役です。子ども達はそんなことは知らずに堂々と演じてお褒めの言葉までいただきました。吉右衛門さんはその年の内に文化庁主催の全国の小学校巡回の「子ども歌舞伎教室」で南魚沼市の第二上田小学校にも来て下さいました。１年後には葛西聖司さんの推薦で石川県小松市主催の「全国子供歌舞伎フェスティバル」に出演が実現しました。本番舞台では葛西聖司さんの総合司会で「仮名手本忠臣蔵七段目」を２日間上演し、小松市中のお練り（写真６）も体験しました。子ども達はもちろん保存会にとっても忘れられない出来事です。その後は毎年９月の歌舞伎座「秀山祭歌舞伎公演」の観劇ツアーが恒例となり、ロータリークラブの人たちに混じって吉右衛門さんの楽屋へ伺うという緊張の体験もしました。葛西聖司さんともご縁が続き、今年の３月19日に三条市で行なわれた旧下田村の中浦歌舞伎資料の文化財指定を祝うイベントに葛西さんが講演者として来県され、塩沢歌舞伎の「ます釣り～三条編～（写真７）」の司会進行までやっていただきました。歌舞伎の持つ「人をつなぐ力」のお陰だと感謝してます。

昨年11月中村吉右衛門さんが亡くなられました。吉右衛門さんの謙虚で真摯なお人柄と子ども達への優しいまなざしが忘れられません、合掌。

（次号につづく）

写真４　弁天小僧で送り出したM
「第29回しおざわ雪譜まつり」

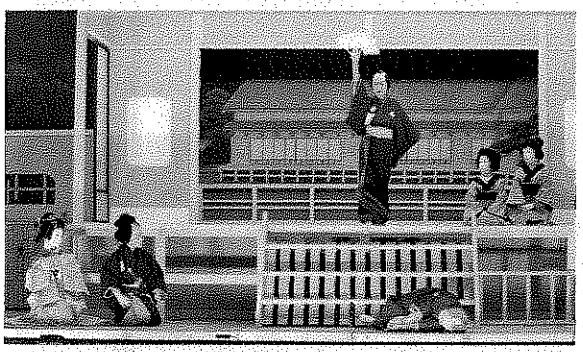


写真５　吉右衛門さんに観ていただいた
子供歌舞伎「仮名手本忠臣蔵七段目」

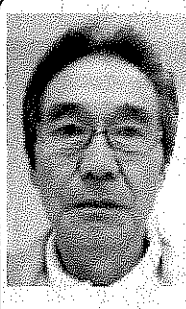
写真６　全国子供歌舞伎フェスタ
市中お練り（石川県小松市）

写真7　葛西さんの進行で「ます釣り～三条編」

**安倍元総理ら自民右派の圧力に負けて、強制労働の史実を隠蔽したまま、「佐渡金山」の世界遺産登録申請が行われた。**
**この間の経過を、佐渡鉱山であった強制労働の解明に長い間、取り組んできた永田さんに寄稿していただいた。**

# 佐渡鉱山の朝鮮人労働者

佐渡支部　永田治人（09）



今年の２月に、「佐渡島金山」をユネスコ世界遺産へ推薦することが正式に閣議決定されました。同時に朝鮮人労働者の強制連行、強制労働の問題も大きく取り上げられ、韓国政府からの抗議に対しての日本政府の強硬な姿勢も含め、私たちの間でいろいろと話題になりました。

世界遺産の意義や維持費用のことはさておき、島民の一般的な意識としては、「日韓政府間の駆け引きより『佐渡島金山を世界遺産にする』ことを政府は第一に考えてほしい、たとえ、観光客誘致が目的かといわれようとも」ということになるでしょうか。簡単に言えば、「世界遺産になってもらいたいし、それで少しでも観光客が増えればありがたい、また、韓国ともできるだけ友好的に」ということだと思います。

ところでこの後、韓国総領事館、日韓のマスコミ、強制動員真相究明ネットワークの方々などから私たちに、佐渡鉱山における朝鮮人労働者の資料公開や現地案内等の申し込みが相次ぎました。この私たちというのは、「佐渡扉の会」という２００７年に結成された部落差別をはじめあらゆる差別の問題（人権問題）に取り組む市民団体のことです。会の発足には、新高退の（故）高山弘さん（当時人権・同和センター事務局長）が関わり、中心メンバーは石崎澄夫さんをはじめとする新高教の同推委ＯＢなど現・退の組合員でした。（事情により今年解散）

この会の活動の一つに、「佐渡鉱山の朝鮮人労働者」についてまとめるという課題があり、資料集めには長くこの調査に関わってきた、林道夫（宿根木・称光寺住職）、小杉邦男（元市議）、金山教勇（元市議）、黛正（医師）の４氏に協力していただきました。

１９９１年から１９９５年にかけて、林道夫氏らを中心とする「佐渡と朝鮮をつなぐ会」のメンバーが、新潟コリアン問題調査会と共同で韓国を訪問し、朝鮮人労働者に聞き取り調査をしたり、労働者や遺族を佐渡に招請する活動が行われました。この中には、当時朝鮮人労働者がかけていた厚生年金の支払いを日本政府に求める取り組みもあり、そのときの厚生省の担当者も含め、地元相川町長、地元企業や住民は、強制連行など日韓の間に不幸な歴史があったことを認識し遺憾の意を表したそうですし、多くの募金も集まったようです。

当時の新聞もその活動を大きな見出しで取り上げました。しかし、世界遺産の話が出てからは、新聞の論調が慎重になり、地元も口が重くなってきたように感じます。下手なことを言えば誹謗中傷されかねません。

佐渡扉の会が、佐渡鉱山の朝鮮人労働者の問題と大きく関わることになったのは、韓国の舞踊家より「相川で佐渡鉱山労働者の追悼の舞を舞いたい」との申し出があり、扉の会が受け皿になったことがきっかけでした。

２０１５年に開催された第１回の「佐渡鉱山労働者を追悼する集い」については、韓国の新潟総領事館や舞踊団、

佐渡市、佐渡市教育委員会など様々な方面から協力をいただき、追悼の舞等の公演と佐渡鉱山での労働の実態ついての講話という内容で行われました。

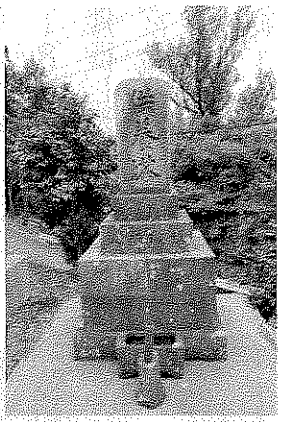
この趣旨は、約400年におよぶ佐渡鉱山の歴史において、過酷な環境の中でいのちを縮め、また落としていったすべての労働者たち（キリシタン、江戸無宿人、朝鮮人労働者を含む）のご苦労と偉業をしのんでの追悼・鎮魂ということであり、外国人差別や労働者の人権という観点で扉の会が関わることになりました。

当初、会場を佐渡鉱山の敷地内の駐車場に予定していましたが、鉱山の管理会社にお願いしたところ、佐渡金銀山の世界遺産登録に支障が出る恐れがある企画には協力できないということで断られ、相川体育館に変更しました。断った理由は、明治日本の産業革命遺産の場合のように、韓国との間での政治問題化が懸念されるからのようです。

もし朝鮮半島から強制的に連れてこられたり、だまされて連れてこられたりした労働者がいたとしたら、これに触らぬようにして登録を推進するのではなく、事実は事実としてはっきりとした上で申請するべきで、それが真の日韓友好関係を築くことにも繋がると思います。

なお、この第1回「佐渡鉱山労働者を追悼する集い」について、ネットでの誹謗中傷や協力をした佐渡市に猛抗議があったり、ポスターをはがして文化庁に送ったなどという話がありましたが、いずれも朝鮮半島出身者に対する偏見や世界遺産登録への妨げになるというのがその理由と思われます。

その後は経費の関係等もあり、規模は縮小しましたが、毎年私たちは鉱山の北沢浮遊選鉱場近くの曹洞宗総源寺境内にある「鉱山労働者の供養塔」の前で献花や追悼の言葉を捧げ供養を行っています。


鉱山労働者の供養塔

（写真）

2017年佐渡扉の会では、当時労務関係の仕事に従事していた在日のSさん（94歳）から話を聞くことが出来ました。

Sさんは1940年に佐渡に来て労務関係の仕事に就き、その年初めて佐渡から韓国に通訳として募集に行きました。1940年、1941年は大勢佐渡に来たそうです。1943年までは募集であり、逃亡阻止のため特別列車に乗せたが強制連行ではないといいます。1943年から1945年の3年間は徴用で、拒否すれば連行したので「強制連行」と言えばこの期間だけであるとのこと。戦後、半島人は皆帰したが、自分は仕事の関係で鉱山に残り、電力関係の仕事で定年のち嘱託も含め1948年まで勤め、その後、「集落の役員など地元にいっぱい貢献した」ということを不自然なほど強調された。Sさんの心の奥底にあるものに触れたような気がしました。これは労務関係の特別な立場だった人の話であり、微妙な質問はしにくい感じでした。

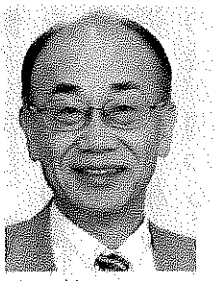
権力を背景にした断れない状況での人集めという実態があったことは、逃亡阻止のため特別列車に乗せたという話からも事実でしょう。とすれば「募集」や「徴用」などの言葉に関係なく、この事実は全て「強制連行」に等しいと思います。

また、賃金も労働条件も日本人と同じで、みんなが苦労したのだという人もいますが、1910年の日韓併合によって無理やり日本化させられたのは事実であり、植民地支配下における朝鮮半島出身の労働者の立場がどんなものであったかは容易に想像できるのではないでしょうか。

第26回参議院議員選挙が7月10日に投開票され、社会民主党は参院選比例代表で１２５万８５０１票（２・３７％）を獲得し、公職選挙法上の政党要件である得票率２％をクリアした。会員で社民党県連幹事長を務める渡辺さんに闘いを振り返ってもらった。

# 首の皮一枚残った“護憲の党・社民党”

社民党新潟県連合幹事長
渡辺英明（長岡支部12年退職）



7月10日に行われた第26回参院選は、物価高に苦しむ生活困窮者の呻吟をしり目に、軍事費の増額や敵基地攻撃能力容認など戦争国家化と改憲に突き進もうとする岸田自公政権にノーを突きつける選挙であった。そして社民党にとっては、政党要件のかかった崖っぷちの選挙であった。

そんな重要な選挙戦の公示日が近づきつつある中、服部・社民党幹事長が已むに已まれず東京選挙区から立候補したために、選対委員長代行であった私が選挙の指揮をとらざるを得なくなり、公示日ちょっと前から東京の社民党本部に詰めることになった。

東京にいて公示日が近づいてくると、正直、この選挙を戦えるのか、勝てるのかと考えてしまった。というのも、私は社民党新潟県連合の幹事長をやりながら、全国連合の組織団体局長も２０２１年１月から務めていて、社民党全国の現在の組織実態を知っている。１年半前の立憲民主党への合流・分裂により、票の稼ぎ頭である東北ブロックと九州ブロックの党員数が激減していることを知っている。特に東北では、宮城、山形が解散し、福島を除く各県で7，8割も党員数が減少していた。九州も、得票率15％を誇る大分、19％を誇る沖縄で党員数が激減し、その他の県でも減少していた。もし、得票率２％、福島みずほの議席1議席が確保できるとしたら、奇跡だと思った。

ところが、奇跡は起きた。比例の得票数１２５万８，５０１票・得票率２・３７％を獲得し、政党要件を確保することができ、福島当選を勝ち得ることができた。あの瓦解同然の東北ブロックで３・１８％もの得票率を獲得した。解散した宮城で約２万票・２・２１％、山形で約１万３，５００票・２・５５％もの得票数・率が出たことに表されているが、社民党支持層の岩盤層が東北には強固に在ることが示された。結局東北は６県すべてで２％をクリアした。

もう一つの奇跡の原因は、東京、神奈川、埼玉の得票数である。東京は18万61票、神奈川は10万３８００票、埼玉が７万７７００票で合計36万

新潟駅前で、訴える福島党首

票余りであったが、19年参院選より15万4800票も増えた。東京選挙区で服部幹事長が、神奈川選挙区で党職員が無理して立候補したことと、福島みずほ票がこれほど票を押し上げたといえよう。

そして、忘れてならないのは、「台湾有事は日本の有事」などとほざき、憲法改悪に走る自公政治への対抗勢力として社民党に投票してくれた良識ある人々の期待が、この奇跡につながったことだ。

さて、こうして奇跡が起き、社民党は首の皮1枚がつながった。私が今回学んだのは、やはり東京、神奈川、埼玉、千葉、福岡の選挙区に必ず候補者を立てること。そしてその候補者を作るために、さらに党そのものの継承を図るために、自治体議員を数多くつくる必要があるということだ。

今回社民党に投票してくれた人々の期待に応えて、憲法改悪の発議を阻止する大衆運動づくりの先頭に立つ中で、新しい支持者を獲得していきたいと決意している。

## 『活動日誌』・点描

■2022年度第1回事務局会議（4月6日）新加入12名確認 ■事務局会議（4月13日）北陸ブロック定期総会の開催を中止し、書面表決に変更決定 ■会計監査（4月20日）平野、舟山両委員出席 ■憲法施行75周年5・3街宣（5月3日）日報メディアシップ前、危機感ある集会。片桐なおみ知事選予定候補も参加 ■事務局会議（5月11日）知事選（片桐なおみ・現退一致の推薦候補）の手配り支援チラシ、役員推薦委員（新津・長岡・柏崎支部）選出依頼、2021年度末退職者名簿（新高教組合員）を支部に送付 ■知事選投票日（5月29日）片桐なおみ候補落選 ■『通信No.142』発送（6月1日）■日退教竹田会長・森越元日教組委員長（古賀ちかげ支援会長）参院選オルグで来局（6月3日）■役員会（6月8日）■本部と支部の意見交換会（6月8日）■日退教2022年度単会代表者会議（6月9日）木村会長出席 ■北陸ブロック第46回定期総会（6月15日）3年連続で書面表決 ■県退職者連合拡大幹事会（6月20日）木村会長（幹事）出席、地域退職者連合の下越地区（渡部良一会長）、県央地区（増田繁雄事務局長）、上越地区（小山正明会長）も参加 ■参議院選挙公示（6月22日）新潟選挙区は森ゆうこ（立憲）、比例区は古賀ちかげ（日政連候補・立憲）を現退一致で、比例区については社民党候補も支持する決定で取り組む ■参議院選挙投開票日（7月10日）選挙区・森ゆうこ惜敗、比例区・古賀ちかげ当選、社民党は比例代表で2・37％を獲得して政党要件を確保 ■事務局会議（7月13日）『通信No.143』編集会議（全体構成）■新高教第92回定期大会（7月16日）コロナ7波で来賓なし ■新潟県退職者連合第30回定期大会（7月20日）参議院選挙の選挙区での野党共闘について県連合に対して厳しい批判の発言あり

**■新高退議案書面承認される**

今年度も新型コロナウィルス感染防止のため、定期大会は開催せず、議案は3年連続で書面による承認をお願いし、全支部から全ての議案を承認していただきました。魚沼支部より質疑・意見がありましたので紹介し、若干の見解を掲載いたします。

「質疑」現職82名の退職者の内、11名しか新加入がなかった。

「見解」再任用期間が4年で、定年退職者の多くが再任用に就いて、職場でも現職同様な任務にある。新高教も継

続組合員制度をとっており、60歳定年＝「退職者」という実態でない。

［意見］花角知事が原発問題を曖昧にしている。

［見解］花角知事の原発問題に対する姿勢は極めて問題です。柏崎刈羽原発差止め裁判に参加し、再稼働反対に取り組みます。

［質疑］連合の政治姿勢を厳しく追及する必要があると思われる。

［見解］連合中央（吉野会長）と県連合の昨年の衆議院選挙以来の政治姿勢は、労働運動の分断・野党の分断ばかりでなく憲法改悪の動きの一因ともなっています。日教組・日退教等への要望活動に取り組みます。

［意見］組織拡大の具体的提案

［見解］現在の60歳定年時以外にも再任用終了時や未加入者への加入の取り組みを行い、加入に結び付けたい。退職者に近い年齢の役員体制の構築も急務です。

## ■本部と支部の意見交換会

３年間に亘り定期大会・県委員会を開催できないため、6月8日午前に役員会を開催し、午後から標記の会を開催しました。

出席者は、役員会参加の副会長を含め、支部15人と本部事務局４人、高教組本部の委員長、書記長の計21人での会となりました。会長の挨拶、高教組遠藤委員長の挨拶に続き、本部事務局より①2022年度議案（中心議案は22年度会費不徴収の件）、②組織の現況、22年度の活動等についての説明・報告を行いました。

続いて、各支部の現況（会員数・役員体制・活動状況など）について報告を受け、意見交換を行いました。

意見交換の中心は、新加入の状態と支部会費の徴収で郵便振込み手数料増大の件でした。とりわけ加入者の件では、その減少は支部活動（役員体制）に大きく影響していることや、再任用や定年延長、退職者への加入呼びかけの取り組みのあり方に意見がありました。また、浅川書記長から退職時の対応で現職で工夫できるのではないかとの助言もありました。

石野

## 編☆集☆後☆記

**「支部活動報告」**９支部中７支部からすでに寄稿していただいた。この間、コロナ禍で活動がなく、寄稿をお願いするのも心苦しいが、通信構成上無理を言って、８番目として柏崎支部にお願いした。取りを飾るのは魚沼支部、今から準備をお願いする。

**「佐渡鉱山の朝鮮人労働者」**安倍らの圧力でばたばたと手続きが進められた世界遺産登録申請だったが、最近ユネスコにより「説明が欠落」しているとして、作業がストップしていることが分かった。欠落しているのは「導水路跡」だそうだが、もっと重要な欠落は「朝鮮人の強制労働」の部分であることをユネスコが指摘すべきではないか。

**「首の皮1枚残った〝護憲の党・社民党〟」**先般の参院選での渡辺さんの奮闘ぶりがうかがえる。それと同時に、前回参院選から20万票を回復したことを見れば、立憲民主党に合流したのは党員だけで、草の根の支持者は逆にそれに反発し、一層堅い支持者となったということか。

（内山）

## ご冥福をお祈りします

（括弧内は現職退職年）

2021年
**田村　佑純　さん（86）**
（魚沼支部）7・7

2022年
**菅沢　重蔵　さん（92）**
（柏崎支部）7・31